

「人にやる気・村に活気・地域づくり学習会」研修旅行 PART 2

甲良町研修旅行 報告書

松本大学地域総合研究センター
 研究員 岩原 正典

オープン・カレッジ「人にやる気・村に活気・地域づくり学習会」の第2回は、滋賀県犬上郡甲良町の「グランドワーク方式による地域づくり」を学んだ。

この学習会シリーズは、「講演会+現地ツアー」で実施しているが、研修旅行PART2は、平成16年6月25日の山田禎夫氏（滋賀県犬上郡甲良町まちづくり課主査）による講演「せせらぎ遊園、水の町～夢現塾からの出発～」を受けての現地ツアーであった。

下記にその概要を報告する。

記

開催日：平成16年9月16～17日

目的地：滋賀県犬上郡甲良町

（琵琶湖の東、犬上川の扇状地、近江米の稲作地帯。彦根市などとの合併協議が進んでいる。「グランドワーク方式まちづくり」成功例として、視察が相次いでいる。）

参加者：22名（内訳 外部参加者8名、学生6名、教職員8名）

宿 舎：「学び舎」

（甲良町立甲良東小学校旧校舎。平成5年の校舎新築にともない取り壊しの運命にあったが、町民の保存運動により曳屋保存された総楯づくりの建造物。現在、「歴史資料館、図書館、セミナーハウス」として活用されている。）

学習内容

1. 現地視察

山本日出男甲良町長の歓迎挨拶の後、本年6月25日の講演会講師であった山田禎夫氏の案内により、町内にある史跡・文化財と町内13集落による「グランドワーク方式まちづくり」の成果である水路や公園などを視察した。

(1) 史跡・文化財

「婆娑羅」大名の異名を持ち、足利尊氏の室町幕府を支えた佐々木道誉ゆかりの勝楽寺と道誉の墓。

戦国時代、関ヶ原、大阪の役で武勲を立て三十二万石の大大名となった、藤堂高虎生誕地としてゆかりの八幡神社と騎馬像。

戦国時代に活躍した尼子氏発祥の地（尼子平成の館）。

日光東照宮寛永大造替の大棟梁を務めた甲良豊後守宗廣ゆかりの甲良神社と銅像。

横関三河守が関ヶ原合戦に敗れ落ち行くときに里人に預けたといわれ、今に至るまで「観音盆」というお祭りが続いている横関観音。

鎌倉時代初期建立の本堂・三重塔が国宝であり、重要文化財の仏像を多く蔵する天台宗の名刹西明寺など。

(2) 親水性水路・公園

① せせらぎに面した家々が、岸辺を花で飾り、川底の玉砂利がはっきり見える澄んだ流れを遊歩道から楽しめる「横関の川」。岸辺を乱舞する蛍を夢見て、森と水路を整備した「蛍の川」など、集落毎に工夫を凝らして整備した親水性水路。

② ほ場整備工事で出た石を使った石組みに用水を流し落とししている「桂城の滝」、「ピエロの滝」などの親水公園

2. 甲良町まちづくり協議会委員（各集落の区長、むらづくり委員長）との交流会

(1) 3分科会による意見交換

11集落から18名の役員が参加。各分科会において、本学学生の司会により、むらづくりの経過・課題などについて質疑応答。

(2) 参加者全員の交流会

3. 長浜「黒壁ガラススクエア」「プラチナプラザ」視察

滋賀県長浜市の中心市街地活性化を試みている二つのプロジェクトである、「黒壁ガラススクエア」、「プラチナプラザ」を視察。

◆「黒壁ガラススクエア」

明治時代に建築された黒漆喰外壁の銀行建物を、中心市街地活性化の拠点（黒壁ガラス館）として保存・活用し、長浜市の第三セクターが周辺にガラスショップ、工房、ギャラリー、美術館、レストランなどを展開・経営し、年間200万人以上の来街者を迎えている。

◆「プラチナプラザ」

空き店舗を利用した、高齢者による商店街活性化活動。

“野菜工房”、“おかず工房”、“リサイクル工房”、“井戸端道場”で活動し、「シルバー」から「プラチナ」へを合言葉にしている。

4. 道中バス内レクチャー（甲良町についての予備知識と通過地でキラリと光る人達など）

玉井袈裟男研究員、建石繁明教授

感想

1. 景観

「せせらぎ遊園～水の町」の呼称に相応しく、集落毎に水路や池を活かした景観づくりに工夫を凝らしてある、落ち着いた田園風景。

歴史を偲ばせる神社・仏閣が風格を添えている。

2. 住民の環境整備意識

道・水路・公園・神社の境内も清掃が行き届いている。家々の前には花の鉢やプランター。

3. まちづくり協議会委員との交流会

分科会による意見交換の時間をもっと欲しかった。

「何故、彦根市のベッドタウン化しないで済んでいるのか？」「集落における住民活動における悩みは？」など、聞いてみたかった。

懇親の時間はすっかり打解けて楽しかった。イベント好きの集落の委員は酒豪。

4. 笹井俊一氏（笹井酒造社長）の参加

笹井氏は横関三河守の末裔とのこと。横関一族は関ヶ原の戦いに敗れ、多くの人々が信濃に逃れ、現在の上田市下乃郷に落ち着いたと言われている。（上田市下乃郷に横関姓がまとまって在る。…玉井先生の説明）その時、一族の長は姓を変え世を忍んで松本の地に落ち着いた。それが笹井氏であるとのこと。

甲良町と長野県との関係にロマンを感じるが、笹井俊一氏の寄稿が楽しみである。

5. 参加学生への評価

本ツアーに参加した6名の学生は、他のツアー参加者や甲良町の人々の松本大学に対する評価を高めてくれた。

今回のツアーの宿泊は、甲良町文化財「学び舎」(旧甲良東小学校校舎)の研修室での合宿であったが、セルフサービスである寝具の用意・片付け、朝食の配膳・片付け、部屋の清掃などを学生諸君が率先して、テキパキと行なってくれた。

厳しい玉井先生が、帰途のバスの中で「いまどきの若者は…と言うけれど、松本大学の学生を見直した。」と賛辞を送ってくれた。私も同感で嬉しかった。

6. 終わりに

今回の学習会は、講演会・現地ツアーとも山田禎夫氏に大変お世話になったが、彼は「住民と行政の間に立って、苦勞しています。」と、ふっと洩らしていた。模範的な「グランドワーク方式による地域づくり」も、彼の様なコーディネーターが居って実現するのであると思った。

また、「平成の大合併」の掛声で全国各地での市町村合併が進んでおり、「甲良町」も彦根市などとの合併協議が進んでいるようであるが、「甲良町のまちづくり」が合併に飲み込まれることなくキラキラ輝き続けるためには、「夢現塾」から始まった学習会と「グランドワーク方式による地域づくり」を、住民自治活動として継続して欲しいと願うものである。

大変有意義な学習会であったが、もっと参加者が欲しかった。勿体無いと思う。

今回は特に、甲良町への研修旅行と甲良町にかかわる研修調査報告書を文部科学省の「特色ある教育支援プログラム」プロジェクトの一つとして実施することができ、文部科学省にも認められたこの活動を、今後さらに第3弾、第4弾…と継続し、地域の方々との交流、学習会を一層盛んにしてゆきたい。

以上